

江別市民健康づくり推進協議会

日時 平成28年10月6日（木）

午後6時30分から

場所 江別市保健センター 3階会議室

次 第

1 開 会

2 協議事項

(1) 健康都市宣言の策定について

(2) その他

3 閉 会

健康都市宣言(北海道:市)

	都市	宣言名	制定年月日
1	函館市	スポーツ健康都市宣言	平成4年10月10日
		いきいき長寿都市宣言	平成6年12月10日
2	旭川市	健康都市宣言	平成2年10月10日
		長寿都市宣言	平成10年3月30日
3	帯広市	健康スポーツ都市宣言	昭和63年10月10日
4	網走市	健康・スポーツ都市宣言	平成21年9月15日
5	留萌市	健康都市宣言	平成17年10月1日
6	美唄市	スポーツ健康都市宣言	平成28年6月24日
7	芦別市	健康都市宣言	昭和52年1月1日
8	士別市	健康・スポーツ都市宣言	平成17年10月14日
9	名寄市	健康都市宣言	平成19年3月15日
10	根室市	スポーツ・健康都市宣言	昭和63年4月10日
11	滝川市	健康都市宣言	平成1年4月1日
12	歌志内市	「健康づくりのまち」宣言	平成3年3月18日
13	石狩市	スポーツ健康都市宣言	平成9年10月10日

前回協議会・協議会後に寄せられた委員意見に関する対応状況

連番	意見の内容	素案への対応
1	「石狩川と原始林の恵みにいだかれ」という意味について、昔、市のキャッチフレーズとしてよく使われ、言葉の響きとしては良いが、健康都市宣言の宣言文として、どのような意図で使っているか。	「石狩川と原始林の恵みにいだかれ」の部分について、江別市を端的・効果的に表す他の事物・表現などについても検討しましたが、これに代わる特段の表現がないため、「豊かな自然に恵まれた」という抽象的表現に変更しました。(名寄市の宣言文でも「豊かな自然の中で、健康で明るい幸せが続くことは～」という冒頭になっているため、参考としています。)
2	石狩川と原始林にあまり良いイメージが無い。石狩川など、水害などの悪いイメージの方が大きい。	
3	「世代を越えて」とあるが、「超えて」という表記もあり、「こえて」というひらがな表記もある。「越えて」とした意図は。	「越える」は、時間・場所など特定の点を越える場合に用いられ、「超える」は、数量・基準などが限度を超える場合に用いられます。ただし、「世代を～」の場合の用法については、他市の都市宣言文においても、「越えて」「超えて」「こえて」の表記が混在しており、一定しておりません。江別市の宣言文においては、平易さを重視してひらがなで「こえて」と変更しました。
4	色々な関係機関が協力しながら取り組むということは事務局の説明としては理解するが、「市民が互いにたすけあい」という文章からは想像しづらい。	表現が抽象的であったため、市民と地域の各種活動、関係機関が連携することをより明確にして、「市民や地域社会、行政が一体となり」に変更しました。
5	「世代を越えて健康づくりに取り組むことで」とあるが、誰が行うのか明確でない気がする。例えば、「世代をこえて市民が健康づくりに取り組むことで」の方が、市民の役割として判りやすい表現になると思う。	文章の流れが分かりにくかったため、健康づくりを行う主体が市民であることを明確にして、「世代をこえて市民が健康づくりに取り組み」に変更しました。
6	「健康寿命を延ばし」とあるが、本文の流れの中で、いきなり「健康寿命を延ばす」という目的だけが唐突に出て来るので、どうして健康寿命を延ばすのかという説明があった方が良くはないか。	健康寿命延伸のそもそもの目的である、健康で自立した生活をおくることの重要性をまず記載することとしました。文章が長くなるため一旦区切る形として、「健康づくりに取り組み、いつまでも健康で自立した生活をおくるのが大切です。そのために、健康寿命を延ばし」という表現に変更しました。
7	項目文で、「食生活を改善し」とあるが、すでに改善された食生活を送っている人たちもいるはずなので、「バランスのとれた食生活を送り」等の表現の方が、一般的には良いのではないか。	「改善」という表現がやや堅く、また誤解を招く可能性もあるため、食生活をどう良くするのか多少具体的にする意味も含め「バランスのとれた食生活をし～」という表現に変更しました。(埼玉県鴻巣市の宣言の項目文でも「バランスのとれた食生活を送り～」という表現を使っているため、参考にしています。)
8	健康寿命との差が大きく、やはり良い食生活を送っているのかということが大変重要だと思う。健康にとって重要な食生活を見直すことで、日々の健康につながっていくと考えるので項目文の「食生活を改善し」という部分は削って欲しくない。	食生活は生活習慣の中でも重要な事項であると認識しているため、引き続き項目文の冒頭に置いています。
9	国等の計画の中でも似たような表現はあるので、参考するとよいと思う。	
10	全体的に文章が堅い、お役所的な感じがする。	今回のご意見を踏まえた修正としてA案を作成していますが、表現をさらにやわらかくしたものとしてB案をお示ししています。

(協議会後に記入用紙により寄せられたご意見)

連番	意見の内容	素案への対応
11	江別には千歳川・夕張川などもあり、関係する人もいるため、固有名詞は使用せず、健康に対するの自然な表現で十分では。流れは良いと思う。	前述1、2の対応のとおり、他市も参考にしただけ自然な表現として「バランスのとれた食生活をし～」に変更しています。
12	宣言文前段の「そのために」以降に、市民、地域、行政の三位一体の協力体制で力強く本事業を推進することを記述し、「そのために市民(家庭)、地域、行政が協調した健康活動体制のもと、誰もが健康で安心して暮らす都市をめざし、ここに「健康都市江別」を宣言します。」としてはどうか。	市民、地域、行政がそれぞれの役割を果たし、協働することを明確にすることとしますが、文章については、多少やわらかい表現とし「そのために市民や地域社会、行政が一体となり、健康寿命を延ばし、だれもが健やかで安心して暮らせるまちになることをめざし、ここに「健康都市えべつ」を宣言します。」に変更しています。 (協働体制の表現については、埼玉県ふじみ野市の宣言に「家庭・地域・行政が互いに協力しあいながら～」という表現もあるため、参考にしています。)
13	項目文の「食生活を改善し」の部分は、表現をやわらかくし「バランスのとれた食生活をし」としてはどうか。	前述7、8、9の対応のとおり、「バランスのとれた食生活をし～」に変更しています。
14	市民の誰もが健康づくり活動(運動、心身の健康学習)を行う裾野を広げるには、運動施設や器具、指導体制の整備が必要であるため、項目文に、「いつでもどこでも心身の健康活動のできる施設、体制の充実をはかります。」を追加してはどうか。	項目文については、行政の取り組み事項というよりは、家庭・地域・行政の3者が互いに協働しながら取り組むべき項目を記載しています。
15	来年春の発表というタイミングに何か意味はあるのか。	平成30年に制度改正を踏まえた介護保険事業計画を策定するほか、国民健康保険の制度改正を控えており、市全体の取り組みとして予防・健康づくりを充実させるためには、できる限り今年度中に宣言を行う必要があると考えるためです。
16	江別市のキャラクターを利用することは考えているか。	キャラクターの使用許可などの条件もあると思われませんが、宣言後に普及啓発活動を行うに当たって、健康づくりに親しみをもちもらう上で江別市内で使われているキャラクターの画像を活用した文書を作成することなども一つの手段であると考えます。
17	E-リズムを項目文の中で表現してもよいのではないか。	宣言文・項目文については、宣言後長く残ることを前提としており、普遍的な内容となるようにしています。E-リズムは長く愛用されてほしいと願うものですが、あくまで個別の取り組みであり将来的には名称・内容が変更されることもありうることから、個別名称としては記載しないこととしています。
18	覚えやすいスローガンなどを作ってはどうか。	理念を端的に表したものとしては、えべつ未来づくりビジョンの基本理念「安心してらせるまち」、えべつ市民健康づくりプラン21の基本理念「だれもが健康的に安心してらせるえべつ」、あるいはすこやか北海道21のスローガン「道民のみなさんがもっと生活を楽しむことこそ最大の健康づくり」といったようなものがあります。 また、西東京市の「しゃきしゃき笑顔で健康西東京市」、あるいは北海道の「すこやかほっかいどう10か条」のような親しみやすいキャッチフレーズを作成することも考えられます。ただし、都市宣言と運動したものというよりは、実際の健康づくりの取り組みの中でこのようなキャッチフレーズを活用することも可能であるため、今後の普及啓発活動の中の課題となります。
19	発表時は、何か健康に関するイベントをした方が良いのではないか。	どのような形で発表することになるかは、これから検討することとなりますが、既存のイベントの場を利用することも含め、できるだけ多くの市民に知ってもらえる場で発表したいと考えています。

20	えべつ市民健康づくりプランと方向性は変わらないということでよいか。	えべつ市民健康づくりプランの内容も含むものですが、スポーツ、食育、高齢者福祉など、健康づくりに関連する他分野の計画や取組も包括し、市全体として進めていくものとなります。
----	-----------------------------------	--

(仮称) 江別市健康都市宣言 (素案)

前回協議会案とA案とB案をお示ししています。A案は、前回の協議会のご意見に基づき文章を修正したものです。(変更した点は、別紙「前回協議会の委員意見に関する対応状況」のとおり)

B案は、主に文章を分かりやすくするために、A案からさらに修正を加えた事務局案です。

前回案	A案	B案
<p><宣言文></p> <p>石狩川と原始林の恵みにいだかれたこの江別の地で、健康で活力ある生涯をおくることは、私たちすべての市民の願いです。</p>	<p><u>豊かな自然に恵まれたこの江別の地で、健康で活力ある生涯をおくることは、私たちすべての市民の願いです。</u></p>	<p>豊かな自然に恵まれたこの江別の地で、元気で健やかな毎日をおくることは、私たち市民すべての願いです。</p> <div data-bbox="1413 703 1850 863" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※「健康で活力ある生涯」、「私たちすべての市民」の表現を若干修正しています。</p> </div>
<p>そのために、市民が互いにたすけあい、世代を越えて健康づくりに取り組むことで、健康寿命を延ばし、だれもが健康で安心して暮らすまちとなることをめざし、ここに「健康都市えべつ」を宣言します。</p>	<p><u>この願いをかなえるには、世代をこえて市民が健康づくりに取り組み、いつまでも健康で自立した生活をおくるのが大切です。そのために、市民や地域社会、行政が一体となり、健康寿命を延ばし、だれもが健康で安心して暮らすまちをめざし、ここに「健康都市えべつ」を宣言します。</u></p>	<p>この願いをかなえるには、世代をこえて市民一人ひとりが、住み慣れたまちで健康づくりに取り組み、いつまでも健やかな生活をおくるのが大切です。そのために、健康である期間を延ばし、だれもが健康で安心して暮らせるまちをめざし、ここに「健康都市えべつ」を宣言します。</p> <div data-bbox="1413 1246 1850 1374" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※全体的に分かりやすい表現に変更しています。</p> </div>

前回案	A案	B案
<項目文>		
<ul style="list-style-type: none"> 一 心と体の健康に関心をもって、健康意識を高めます。 一 自らの健康状態を知り、すすんで健康を管理します。 一 地域とのつながりを大切にし、ともに健康づくりの輪を広げます。 一 食生活を改善し、運動する機会を増やし、正しい生活習慣を守ります。 	<ul style="list-style-type: none"> 一 心と体の健康に関心をもって、健康意識を高めます。 一 自らの健康状態を知り、すすんで健康を管理します。 一 地域とのつながりを大切にし、ともに健康づくりの輪を広げます。 一 <u>バランスのとれた食生活をし、運動する機会を増やし、正しい生活習慣を守ります。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 一 生涯を通じて、心と体の健康に関心を持ち続けます。 一 健康を自ら守るため、すすんで自分の健康状態を確認します。 一 バランスのよい食事や適度な運動で、正しい生活習慣を守ります。 一 地域とのつながりを大切にし、健康づくりの輪を広げます。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※「健康意識」「健康を管理します。」という固い用語を極力省き、より端的で分かりやすい表現に変更しています。 (1項目目に「生涯を通じて」を追加しているのは滋賀県草津市の健幸都市宣言の表現なども参考にしています。) ※「まず自らの健康を守る→地域に輪を広げる」という流れとするため、3項目目と4項目目を入れ替えています。</p> </div>

健康都市宣言の名称（表題）について

<一般的な宣言名称>

- ・健康都市宣言
- ・健幸都市宣言
- ・〇〇市健康都市宣言

<特色・親しみのある宣言名称>

- ・栗山町
健康寿命延伸のまちづくり宣言（H27.9 制定）
- ・茨城県潮来市
健康都市宣言「健康都市いたこ」（H26.10.18 制定）
- ・埼玉県ふじみ野市
元気・健康都市宣言（H27.1.5 制定）
- ・埼玉県加須市
加須市健康づくり都市宣言（H27.3.22 制定）
- ・東京都台東区
たいとう健康都市宣言（H19.12.1 制定）
- ・神奈川県大和市
「健康都市 やまと」宣言（H21.2.1 制定）
- ・静岡県袋井市
日本一健康文化都市宣言（H22.5.16 制定）
- ・新潟県糸魚川市
はつらつ健康都市宣言（H20.3.19 制定）
- ・和歌山市
生き生き健康都市宣言（H26.12.16 制定）
- ・島根県雲南市
うんなん健康都市宣言（H26.11.1 制定）
- ・佐賀県鳥栖市
うらら健康都市宣言

健康都市宣言後の「健康寿命延伸」に向けての取り組みについて(意見の対応状況)

	意見	市の考え方(検討結果)
1	<p>○「健康意識を高めよう」「社会活動に参加しよう」「健康づくりをしよう」と目標が3つあるが、宣言文に付随する項目文は4つあるので、この4つの項目文を少し簡潔に表現した形で、そのまま目標にしても良いのではないか。項目文があるのに、あえて目標として3つの目標を掲げている意味は何か。</p>	<p>○宣言文・項目文は策定すると半永久的なものであるが、目標や取り組みについて、えべつ未来づくりビジョンの改定時に見直しする予定であります。 委員のご指摘通り、宣言後の最初の目標であり、宣言の項目文と同数の方が市民に分かりやすいため、目標は4つに変更します。</p>
2	<p>○生きがいつくりの活動として、蒼樹大学がいきなり出てくるが、これは生涯学習課で実施している蒼樹大学2年間、聚楽学園8年間、聴講生、生涯まで650人ほど高齢者がいますが、生きがいつくり活動を蒼樹大学でやっている訳ではなく、私たち高齢者クラブ会員4,000人いるが、蒼樹大学以上にやっている。あえて、特定の団体を出すのは、良くないのではないか。必要がないと思う。他にも女性団体等の団体も生きがいつくりの活動しているので、検討してもらえないか。</p>	<p>○蒼樹大学・聚楽大学については、市が設置している「高齢者のいきがい作りや地域社会に貢献できる人材」を育成する目的で運営されている生涯学習事業であり、健康寿命の延伸の取組項目の指標(目標値)として、江別市の事業、江別市のデータを掲載したものであります。これについては、市民からも目標値の設定については客観性・分かりやすさという点が必要であるためであります。 指標については、江別市の事業又は江別市が補助している事業と考えております。 また、これ以外にも、各団体で行っている事業で、健康寿命延伸のための取り組みとして相応しい指標等(数値)があれば、掲載したいと考えております。</p>
3	<p>○指標等であれば、当然、それぞれの団体で実施しており、例えば高齢者クラブでは体力測定を毎年しているとか、女性協、育成協も同じように色々あると思う。あえて、一つの団体を載せることで、何故、2年間150人の規模の蒼樹大学を載せて、4,000人規模の高齢者クラブは乗せないのかというような誤解を招きやすいので、蒼樹大学は載せなくてもいいのではないか。こちらとしては、団体の名前を出す大変なことになるが、別な表現があれば、誤解がないかと思われる。</p>	
4	<p>○具体的な取り組み項目についても「運動習慣の定着化と環境の整備」など、非常に硬い表現である。「環境の整備」と書かれると、体育館でも新しく建ててくれるのかと期待してしまう。他市のように「運動やスポーツを楽しむ」というような、柔らかい表現の方が親しみやすい。</p>	<p>○運動やスポーツを「習慣づけ」してもらうことが重要であるため、運動習慣の定着化と環境の整備を「運動・スポーツ活動の習慣化」に、その他についても、柔らかい・分かりやすい表現に修正いたします。</p>

健康都市宣言後の「健康寿命延伸」に向けての取り組みについて(意見の対応状況)

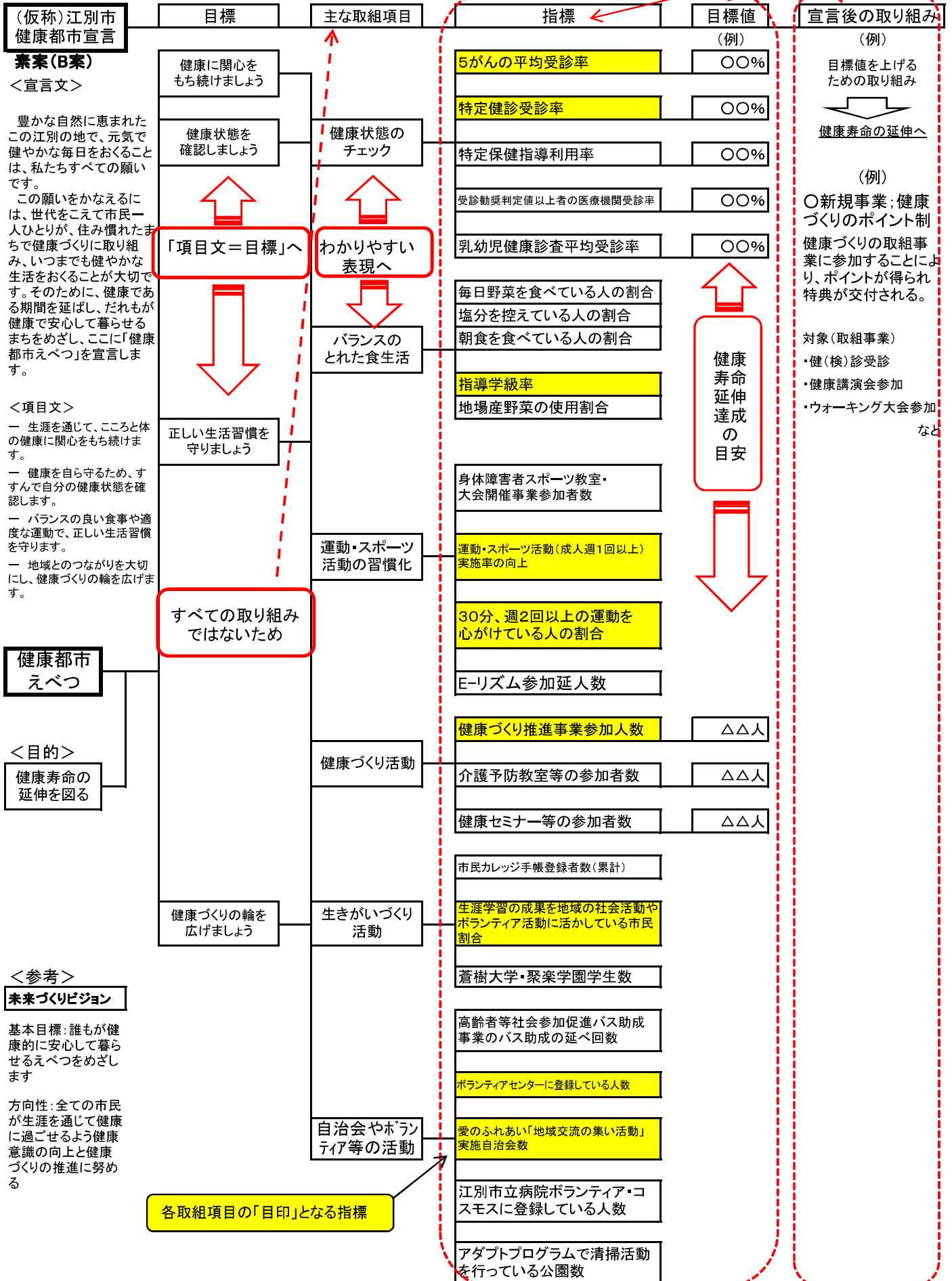
	意見	市の考え方(検討結果)
5	<p>○過去の健康づくり事業をみると、どちらかと言うと特定健診とか高齢者向けの事業やソフト事業が主体のようですが、予防医学のように40、50歳代から健康づくり意識を高める方策に力を入れ、不健康になる前に積極的に運動に取り組める楽しい事業を進め(例⇒個々人に対応、いろいろな運動スポーツの目標値を設定し楽しみながら運動・スポーツが出来るメニューを示したりして出来るだけ運動・スポーツ人口を若い時から取り組めるソフト、ハード面の充実を図ることが結果、健康寿命を延ばす早道で、医療費の圧縮につながる積極的な健康づくり事業につながるものと考えます。</p> <p>・スポーツのメニュー～マラソン、クロカンスキー、歩くスキー、水泳、ソフトテニス、卓球、バドミントン、ウォーキング、太極拳、ヨガ、野球、ソフト</p> <p>・普及の方法～運動、スポーツには、最初は、サークル教室、サークル作りを積極的に取り組み活動助成を行い定着を図る。 体育館等会場使用を利用しやすい料金にすべきと考えます。</p>	<p>○健康寿命の延伸を実現するためには、委員ご指摘のソフト・ハード面の充実を図り、様々な取り組みが実施されるものであります。</p> <p>市においては、生活習慣病の予防や健康の保持増進のために、親しみをもって取り組める運動E-リズムの普及活動や、地域で健康づくりを支えていくために地域健康づくり推進員(市の委嘱)によるウォーキング教室を実施しているところであります。</p> <p>ただ、指標(目標値)としては、現在、所管課がサークル教室等の数・人数をデータとして保有しているかどうか、あるいは、活動助成が望ましいかどうかになります。</p> <p>また、体育館等会場使用料については、高校生以下の学生や65歳以上の高齢者には低い使用料に設定し、さらに、月額の場合は、全利用者に対し、割安の定期料金で使用料を設定しているところであります。</p> <p>なお、委員からのいただいたご意見については、スポーツを所管している部局に情報提供いたします。</p>
6	<p>○健康というキーワードで地域を作っていこうとする都市が健康都市だから一人ひとりの意識・心がけも大切だが、もっと家族で取り組みやすい内容を検討しては、 例えば、小学校6年生の生活習慣病健診(希望者)は。</p>	<p>○生活習慣病予防のためには、若い年代から意識づけ・取り組みが重要であります。生活習慣病予防を含めて、家族で健康づくりに取り組める内容や若い年代からの健診については検討してまいります。</p>
7	<p>○特定健診・がん検診も含め健康づくりの実践をポイント化して何か特典を付与する。(9月14日付け毎日新聞)</p>	<p>○ご指摘の点については、丁度、9月に開催された議会でも一般質問されたことではありますが、ポイント制などの導入は、他市町村の事例や取り組みを参考に、どのような対応が可能か、検討してまいります。</p>
8	<p>○大学のスポーツ:健康関係の連携は?</p>	<p>○平成22年度から「児童生徒体力向上事業」として、体力向上に係る実践研究を行っている北翔大学の協力のもと、近隣に位置する文京台小学校をモデル校に指定し、教授と学生が学校を訪問のうえ、朝の時間を利用して「朝運動プログラム」を実施しております。</p> <p>また、モデル校以外で体力向上が広がるよう、朝運動プログラムの普及出前授業を実施しているところであります。</p> <p>その他にも、江別市内の4大学と連携して開催している「えべつ市民カレッジ連携講座」においては、今年度は、酪農大学において「楽しくスポーツ・健康講座」を、北翔大学においては「食生活と運動による美肌と健康の維持」を開催しています。</p>

健康都市宣言後の「健康寿命延伸」に向けての取り組みについて(意見の対応状況)

	意見	市の考え方(検討結果)
9	○具体的な取組項目が6つありますが、まとめれる項目があればあるいは他に取り入れた方がよい項目があれば、この6つでなくてもよいのではないか。	○健康寿命延伸を構成する要素として、一般的には、健(検)診、社会参加、運動、食などがありますが、社会参加についてはジャンルが幅広く、分かり難い表現であることから、「健康づくり活動」「生きがいづくり活動」「自治会やボランティア団体等の活動」に区分し、最終的には6項目になりました。
10	○2年計画あるいは3年計画で重点項目を決めて第1期計画、第2期計画として、目標を決めて取り組んではどうか。	○委員ご指摘のとおりであります。健康づくりに関連する各種計画等において、健康都市宣言を受けて事業や行事等の取組方法が変わっていくものと考えられます。 また、今回の健康寿命延伸を図るための目標・取組項目については、市の最上位計画である「えべつ未来づくりビジョン」の改定毎に見直しを検討しており、えべつ未来づくりビジョンは10年間の目標・5年ごとに見直しとしていますので、この計画合わせて目標や取組項目を決めたいと考えております。これに併せて指標も見直ししますが、指標においても、取組項目ごとに代表的な指標を選び、分かりやすいものとしたく、自動的に、この指標がある事業が重要項目と位置づけられるかと考えております。
11	○健康問題は言葉のみが先進りして、実体として実現していないのが私達の現状です。私達高齢者クラブでも健康問題を取入れながら活動しています。ですから、具体的でやさしい方法を取入れる工夫が大切です。運動を進める施設の問題など解決してやらないと活動できないのが現状です。	○「健康寿命の延伸」に向けて、市民、地域及び行政が協働で健康づくりを取り組んでいただきたいため、そのきっかけとして、健康都市宣言を行うものであります。 健康都市宣言後の取り組みが重要であり、市としても健康寿命の延伸に向けて、現在、どのような取り組みが良いのか検討しているところであります。 なお、運動を進める施設の問題については、施設を所管する部局に情報提供いたします。

健康寿命の延伸を図るための「4つの目標」「6つの取組項目」

現在、市で検討中



各取組項目の「目印」となる指標

健康寿命延伸達成の目安